

〈患者を生きる:1858〉レーザー治療ですっきり



左足静脈の血管の中に、レーザーを出す細い管をいれて焼いた＝2月、東京都中央区

■血管の病気 下肢静脈瘤:3

30年以上前から下肢静脈瘤(りゅう)に悩んでいた茨城県常総市の大貫ミサ子さん(64)は昨年9月、テレビで見たレーザー治療に関心を持ち、かかりつけ医から紹介を受けた銀座七丁目クリニック(東京都中央区)を訪れた。大貫さんを診た医師の金子健二郎さん(35)は「手術は可能」と、すぐに予定を入れた。

最初に症状の重い右足手術が、昨年10月28日に行われた。ひざ下の表面にある静脈が動かないように局所麻酔をして、レーザーを出す細い管を静脈に入れる。1センチあたり7秒間、レーザーをあてて血管を焼いていく。長さ約20センチの静脈の治療に、15分程度かかった。

治療はこれで終わらなかった。さらに、レーザー治療では取りきれないふくらはぎのこぶを取り除く作業が続く。皮膚に切り込みを入れ、小さなさじのような器具で静脈の中にあるこぶを探り、別の器具でつまんで抜く。約30分ほどかけて、いくつものこぶを丁寧に抜き取り、50分ほどで治療を終えた。

治療の翌日と1週間後に受けた経過観察では順調と診断され、治療効果を劇的に感じた。

毎朝、パンパンにむくんでいた右足に、しわが寄っていた。「信じられない」。興奮が冷めず、常総市に戻って桜橋クリニック院長の鈴木且麿さん(51)に報告した。

左足も楽になりたくて、今年2月に再びレーザー治療を受けた。この日は、慈恵医大血管外科教授の大木隆生さん(49)が治療を担当した。

両足のむくみが、30年ぶりに解消された。朝起きて自分の足を見ると「こんなに細かったかしら」と、いまだに感慨深い。

工場長を務める豆腐工場では、後進を育てながら、週5日出勤する。1日8時間の立ち仕事は、椅子の上で正座をしたり、床にぺたりと座り込んだりして、圧迫しないと耐えられないほど足がだるく、むくんだが、格段に足が軽くなった。

3人の息子は独立し、フランス、豪州、東京と離れて暮らす。近くに頼れる親族もいないため、足腰を丈夫にして、一日でも長く健康で過ごしたいと思う。今回、レーザーで下肢静脈瘤が治療できたことで、まだまだ元気で動ける。そう自信が持てるようになってきた。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright ©2012 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.